



第18回柴三郎プログラムセミナー

「コレステロール・胆汁酸代謝を調節する 核内受容体、そして「胆汁酸」の新機能」

核内受容体は、リガンド結合領域とDNA結合領域を有する転写因子である。1980年代にグルココルチコイドやエストロゲンの受容体が最初に同定されたが、ヒトにおいては48種類の核内受容体が存在することが知られている。Liver X receptor (LXR) は、リガンドが未知のオーファン受容体として同定されたものだが、オキシステロール受容体としてコレステロール・胆汁酸代謝を調節することが明らかになった。その後、私達の研究により、これまで脂質の消化吸收を補助する因子として知られていた「胆汁酸」が、オーファン受容体farnesoid X receptor (FXR) のリガンドとして、ホルモン様シグナル分子として機能することが見出された。本講演では、生体の代謝・免疫調節因子としての「胆汁酸」の新機能と、疾患の病態との関連性について概説する。



日本大学 医学部生化学分野

榎島 誠 教授

2026年 10月29日 (木) 17時～18時30分

本荘北地区 ~~医学教育図書棟3階~~
~~KMバイオロジクス講義室~~
医学教育図書棟6階
会議室

問い合わせ先

柴三郎プログラム運営委員会事務局

iyg-igaku-3@jimu.kumamoto-u.ac.jp

内線: 7387

参加登録フォーム



※参加人数の把握のため、10/26 (月) までに
事前の参加登録をお願いいたします。